

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 19 年度 ～ 平成 20 年度

課題番号：19500653

研究課題名（和文） 住居・建築分野における就業と生活歴  
-生活の視点をもった専門家育成のために研究課題名（英文） Working and life history of graduates in field of housing and  
architecture - in order to cultivate professionals who have a living angle.

研究代表者

小伊藤 亜希子(KOITO AKIKO)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・准教授

研究者番号：90257840

研究成果の概要：

住居・建築分野における女子卒業生の追跡調査を通じて、仕事と生活歴を解析し、キャリア継続の阻害要因を把握した上で、当該分野における女性の参画が、男女双方のライフスタイルと空間創造にどのような変化をもたらしているかを明らかにした。当分野における厳しい労働環境の中で、女性は多様な働き方を選択しながら専門の仕事を継続していること、その際、女性としての家庭における生活体験を仕事に生かして活躍していることを示した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 20 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：ライフスタイル、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、生活者の視点

## 1. 研究開始当初の背景

住居・建築分野で生活空間を計画する専門家は、自らも生活者として空間を利用していることが望まれる。これまで、空間を計画する性と、空間を使う性は明確に分離していた。そして生活空間を計画し作ってきたのは圧倒的に男性であった。時間を厭わないハードな働き方を日常としてきたこの業界において第一線で活躍するためには、家庭・地域生活を切り捨てざるを得ないという状況があるのは現在も変わらない。その結果、家庭や地域での生活経験の乏しい専門家が大量

くられ、利用者、生活者の視点が抜け落ちた都市空間、生活施設や住宅を計画することにつながっている。このことは、日本の生活空間のあり方にとっての大きな問題を蓄積してきた。

生活者の視点にたった建築創造が強く求められる現代において、女性参画と生活視点の導入を解明することが求められていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、当分野における女子卒業生の追跡調査を通じて、仕事と生活歴を解析し、キ

キャリア継続の阻害要因を把握した上で、当該分野における女性の参画が、男女双方のライフスタイルと空間創造にどのような変化をもたらしているかを明らかにしようとする。

本研究の目的は、以下の5点に整理される。

- (1) 住居・建築分野における女子卒業生を対象に、就業状況、働き方、及びその変化を時代ごとに明らかにする。
- (2) 女子卒業生のキャリア継続を阻害している要因を明らかにする。
- (3) 女子卒業生のライフスタイル型（単身仕事継続型、育児両立型、DINK型、専業主婦型など）別のライフスタイル選択要因を個人の意識・社会環境との関係から明らかにする。
- (4) 建築設計専門家を対象に、男女のライフスタイルから生活体験の性差を明らかにする。
- (5) さらに、設計技術者自身の様々な生活体験がどのように仕事に反映しているかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

- (1) 歴代女子卒業生への、仕事と生活歴に関するアンケート調査
- (2) 女子卒業生へのヒアリング調査にもとづくライフヒストリー調査
- (3) 建築設計専門家への、生活体験と仕事への反映に関するアンケート調査、及びヒアリング調査

### 4. 研究成果

住居・建築分野の女子卒業生の就業と生活歴の調査にもとづき、当業界における女性の参画状況、その阻害要因を把握し、さらに、建築設計技術者の生活体験が生活空間創造に与える影響について検討した。得られた知見は以下である。

#### (1) 建築系住居系分野における男女共同参画の現状

当分野を卒業した女性が、厳しい労働環境と家庭責任との狭間で、場合によってはどちらかを犠牲にし、転職を繰り返したり、健康を損ねたりしながらも、多くが高い専門への職業意識を持ち仕事を継続していることが明らかになった（図1）。それを可能にしている要因のひとつは、手に職を持つという当分野の特徴である。女子卒業生の多くが建築士等の資格を積極的に取得し、実務経験を積み上げることで、最初の就職先を退職しながらも、独立自営をはじめ、短時間雇用や在宅勤務などの柔軟な働き方を選択しながら、専門分野での仕事を続けることができている。

一方、特に男女雇用機会均等法施行以降、健康を害したり、結婚や出産を犠牲にして働く女子卒業生の割合も増加しており、なお両

立困難な実態も明らかになった（図2）。

また、現在は退職して専業主婦となっている人も、過去には再就職の意志を持っていたこと、また実際に転職した経験のある人も半数以上を占めていたことから、仕事継続の努力をした結果のライフスタイル選択であったことが分った。このことは、意志があってもキャリア継続が困難な建築業界の厳しさと同時に、今後の両立支援対策や環境整備によって、より多くの人的資源を生かせる可能性を示唆している。

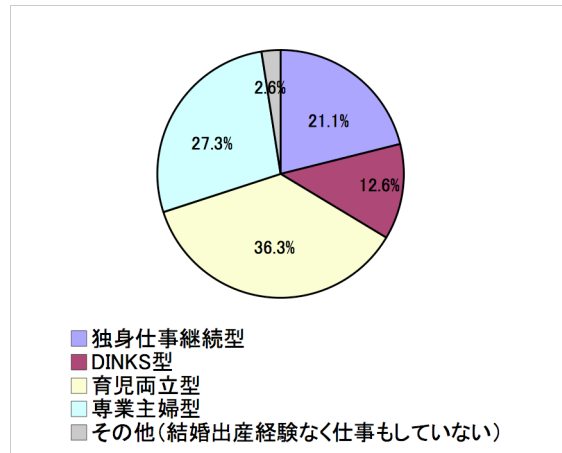


図1 女子卒業生のライフスタイル分布

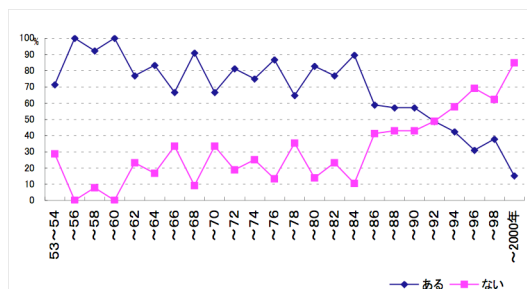


図2 卒業年別、出産経験の有無

#### (2) 多様性の保護からみた男女共同参画

本研究において、男女の生活体験に大きな性差が存在することが明らかになった。男性の生活には、結婚前後で大きな変化はなく、概ね仕事中心の生活を続けている場合が多いのに対して、女性は、結婚を転機に多くの時間を家事・育児・介護に費やす生活に転換するのが一般的である。その結果、女性は家庭生活に関わる生活体験を蓄積することになる。この生活体験が、当分野における女性技術者の武器となり、世間からも生活重視の女性の視点を期待され、それに答えるべく、建築設計においては、女性は主に住宅分野に特化して活躍している実態が明らかになった。

住居・建築分野は、生活空間を創造する職能である。これまで社会における性別役割分

業を反映して、生活空間を利用するのが主に女性に偏っていたのに対して、当分野における生活空間を作る仕事は主に男性が担ってきた。しかし、生活空間を利用するのが性別年齢を問わず多様である限り、空間を創造する側にも、生活者の立場に立った多様な視点が求められる。当分野において、異なる生活体験や視点をもつ男女が、生活空間創造に参画することは空間創造の多様性を保護することを、本研究は指摘することができた。

### (3) ワークライフバランス実現による男女共同参画の意義

我が国における男女共同参画の推進は、能力のある女性労働力を過酷な男性労働市場に組み込む形で進められてきた。少子化対策における仕事と家庭の両立支援においても、長時間労働を前提とした子育て支援策が中心であり、ゆとりある家庭生活を保障してこなかったために、生活上の矛盾が拡大している。

生活空間を創造する仕事である住居・建築分野においては、本来、専門家自身が家庭・地域での生活者であり、生活者の視点を持っていることが強く求められる。現状では当業界の厳しい労働環境が、男性専門家のそれを阻害してきたことは否めない。そうした中で、当分野に参画しはじめた女性は、家庭責任を負いながら参画することで大きなハンディを余儀なくされながら、自らもそれを武器に変えて当業界に進出している実態が明らかになった。本研究において、男女ともに、家庭生活体験が最も直接的に仕事に反映していることを示したことは(図3)、当分野においては、家庭生活との両立、ワークライフバランスの実現がキャリア形成と必ずしも矛盾せず、むしろ豊かな生活空間創造につながっていることを明らかにした。それにより、男女ともに妥当な労働環境を保障し、ワークライフバランスのとれたライフスタイルを実現することが、安全で豊かな生活空間創造につながることを示唆された。

このことは、男女共同参画と、男女双方のワークライフバランスの実現という社会全体の課題に対しても、一つの方向性を示すことができたと考える。すなわちワークライフバランス実現による男女共同参画が、今後の我が国が目指すべき道筋である。

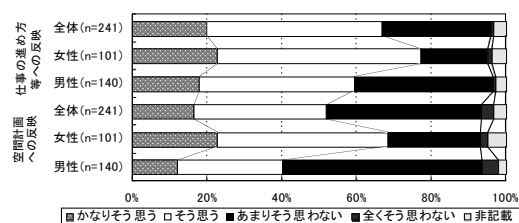


図3 男女別、生活体験の仕事への反映

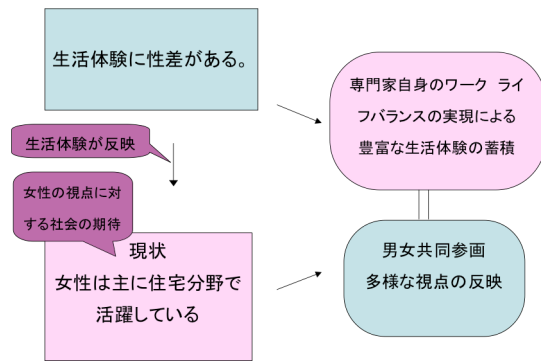


図4 ワークライフバランスの実現と男女共同参画

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①. 趙玫妃・小伊藤亜希子・浅野智子・上野勝代・中島明子・松尾光洋・室崎生子・室崎千重「住居系・建築系学科女子卒業生におけるキャリア継続の阻害要因に関する研究」日本建築学会計画系論文集第73巻第625号、pp.633-640、2008.03、査読有
- ②. 趙玫妃・小伊藤亜希子・浅野智子・上野勝代・中島明子・松尾光洋・室崎生子・室崎千重「住居系・建築系学科女子卒業生における仕事と生活に関する研究」日本建築学会計画系論文集第617号、pp.103-110、2007.07、査読有
- ③. 趙玫妃・小伊藤亜希子・浅野智子・上野勝代・大谷由紀子・中島明子・松尾光洋・室崎生子・室崎千重「建築系・住居系学科女子卒業生の仕事と生活をめぐるライフストーリーに関する研究」日本建築学会近畿支部研究報告集第47号計画系、pp.713-716、2007.06、査読無
- ④. 趙玫妃・小伊藤亜希子・浅野智子・上野勝代・中島明子・松尾光洋・室崎生子・

室崎千重「建築系・住居系学科女子卒業生の仕事と生活歴」日本建築学会近畿支部研究報告集第46号計画系、pp.681-684、2006.06 査読無

[学会発表] (計 4 件)

- ①. 小伊藤亜希子・趙玟姪・浅野智子・上野勝代・大谷由紀子・中島明子・松尾光洋・室崎生子・室崎千重「生活体験と生活空間創造に関する研究－建築設計技術者の生活を中心とした性差 その2－」日本建築学会大会, 学術講演梗概集 F-1 分冊 pp.1149-1150、2008.09.18、広島大学
- ②. 趙玟姪・小伊藤亜希子・浅野智子・上野勝代・大谷由紀子・中島明子・松尾光洋・室崎生子・室崎千重「生活体験と生活空間創造に関する研究－建築設計技術者の仕事に対する姿勢を中心とした性差 その1－」日本建築学会大会, 学術講演梗概集 F-1 分冊 pp.1147-1148、2008.09.18、広島大学
- ③. 趙玟姪・小伊藤亜希子・浅野智子・上野勝代・大谷由紀子・中島明子・松尾光洋・室崎生子・室崎千重「建築系・住居系学科女子卒業生の仕事と生活をめぐるライフヒストリーに関する研究」日本家政学会関西支部第29回研究発表会、2007.10.13、大阪市立大学
- ④. 趙玟姪、小伊藤亜希子、浅野智子、上野勝代、大谷由紀子、中島明子、松尾光洋、室崎生子、室崎千重「韓国における建築学科女子卒業生のキャリア継続を成立させる要因に関する研究」日本建築学会大会、学術講演梗概集 F-1 分冊 pp.1261-1262、2007.8.30、福岡大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小伊藤 亜希子 (KOITO AKIKO)  
大阪市立大学・大学院生活科学研究科  
・准教授

研究者番号：90257840

### (2) 研究分担者

#### (3) 連携研究者

中島 明子 (NAKAJIMA AKIKO)  
和洋女子大学・家政学部・教授

研究者番号：30113294

上野 勝代 (UENO KATSUYO)

神戸女子大学・家政学科・教授

研究者番号：90046508

大谷 由紀子 (OTANI YUKIKO)

仏教大学・公私立大学の部局等

研究者番号：00411116・非常勤講師

#### (4) 研究協力者

趙玟姪 (CHO MINGJUNG)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・大学院